



学院史編纂室便り

NO. 47 (2018.5.1)
関西学院大学 学院史編纂室

★『関西学院史紀要』第24号の発行

3月15日に『関西学院史紀要』第24号を発行しました。当紀要(第6号以降)は「関西学院大学リポジトリ」に登録されていますが、印刷物をご希望の場合は学院史編纂室までご連絡ください(創刊号、2号、12号、13号、15号は在庫なし)。

〔論 文〕	戦間期関西学院における「恒久平和」運動について(前) —神崎驥一、乾精末と国際連盟協会、排日移民法、太平洋問題調査会、軍事教練—	井上 琢智
〔研究ノート〕	ベーツ資料の翻訳—高等学部長として、院長として、学長として— 河上丈太郎と関西学院—その軌跡と学院における評価—	池田 裕子 阪上 裕康
〔インタビュー〕	高等商業学校と商経学部で学んで ～齋藤昭氏に聴く～	辻本 由美
〔記 録〕	第48回 関西学院史研究会 関西学院・西宮上ヶ原キャンパスの歴史的環境—関西学院構内古墳と上ヶ原用水—	中村 直人
	第49回 関西学院史研究会 久留島武彦と関西学院	金 成妍 正田 吉男
〔寄 稿〕	カンオケ われらの時代—漱石・歓三・道也の系譜をたどって	

★トレイヤ＝マシー駐日ラトビア大使の表敬訪問

2月9日、第3代駐日ラトビア共和国大使のダツェ・トレイヤ＝マシーさんが関西学院を訪問され、田淵結院長、ルース・グルーベル前院長、舟木讓宗教総主事(学院史編纂室長)、細見和志総合政策学部長等の歓迎を受けました。

8月下旬に着任された大使は、12月にクチンスキス首相の来日(首相は、大使館で開催された歓迎会の席で、リガに日本の経済拠点を置く話が進んでいることを報告されました)、1月には安倍首相のラトビア訪問があったため、関西学院への挨拶が遅れたことを詫言っておられました。大正時代に関西学院で教えていたラトビア人青年イアン・オズリンが日本におけるラトビア外交代表としての職務を開始したご縁で、ペーテリス・ヴァイヴァルス初代大使、ノルマンズ・ペンケ第2代大使も、関西学院を訪問されています。

なお、トレイヤ＝マシー大使のご提案により、5月7日(月)から18日(金)まで、神戸三田キャンパスのアカデミック・コモンズで「**ラトビア、建築の融合**

「**LATVIA. ARCHITECTURE AT CONVERGENCE**」展を開催することになりました(10:00～17:00<平日のみ>、初日13:00開始、最終日15:00終了)。これに合わせ、総合政策学部では、5月14日(月)に、ラトビア建築に関する公開授業(13:30～15:00「都市デザイン論」、加藤晃規名誉教授、VI号館201号教室)が行われます。ぜひ、足をお運びください。



★小冊子『兵庫県の学校教育とカナダの関わり ～関西学院とカナディアン・アカデミー～』の作成

日本カナダ会から依頼を受け、兵庫県政150周年を記念して同会が主催する「カナダ公開セミナー」(5月19日、神戸国際協力交流センター)のため、写真主体の標記小冊子(A5版12頁)を作成しました。冊子ご希望の方は、学院史編纂室までご連絡ください。

★アルマン・デメストラルさんの来訪

C. J. L. ベーツ第4代院長ご令孫、アルマン・デメストラルさん(マギル大学名誉教授)が、6月2日、3日に東京で開催される国際法の第7回四学会国際会議(カナダ、アメリカ、オーストラリア・ニュージーランド、日本)参加のため、来日されます。その後、6日から8日まで関西学院にお越しいただけることになりました。アルマンさんは、2014年の大学博物館開館に合わせ、お祖父様が残された写真アルバムの長期貸し出しに応じてくださいました。写真は、平常展や印刷物に活用されています。このアルバムに関しましては、5頁をご覧ください。



次の刊行物をご希望の教職員は、学院史編纂室(西宮上ヶ原キャンパス時計台1階)までご連絡ください。

- ◆ 『関西学院百年史』資料編Ⅰ・Ⅱ、通史編Ⅰ・Ⅱ、通史編索引
- ◆ 『関西学院事典』増補改訂版 ◆ 『関西学院校歌「空の翼」』復刻版